

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
白河市	双石集落	令和3年3月22日	新規

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	111.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	87.1ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	46.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.5ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	12.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	20.8ha
(備考)	

注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

本集落は古くから穀倉地帯として知られており、良質な米の産地となっている。しかしながら、日当たりや水はけ等に問題がある条件の悪い山際には耕作放棄地も見られ、また他の地域と同様に高齢化や後継者不足などの問題も年々深刻化している。アンケート回答者のうち現在70才以上の耕作面積の割合は5割を超え、10年後には70才以上の割合が8割を超えるため、新たな担い手の確保が必要となっている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体となる認定農業者10経営体や、集落内の規模拡大意向のある農業者が担っていく。

就農を希望する方に対しては、将来の地域の担い手として育成・支援を図っていく。

農業法人サラダボウルが、麦ノ内地区6.2haの水田を活用した大規模グリーンハウスによる高収益作物(トマト)の生産計画について地権者と合意している。当該法人は地域農業の振興に努めることを目標としており、今後地元からの雇用就農や新たな担い手としての活躍も期待される。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。